

地域交流施設整備に助成

1 500万円程度 緑地や陶芸教室など

住民などから出資を募って街づくりを生かす市民ファンドの草分け、世田谷まちづくりファンド(東京・世田谷・森下尚治理事長)はこれまで手がけてこなかった地域の施設整備に対する助成を始めた。金額は一件五百万円前後。環境調査など従来の助成に比べ十倍以上の金額だ。住民に成果が見えやすい「施設」を対象に加えることで地域の関心を高め、寄付金の減少傾向に歯止めをかける狙いがある。

世田谷ファンドは一九九二年に設立した。基金は今年三月末時点で一億三千八百万円。これまで区の予算支出も受けながら百八十二団体に資金を助成してきた。主な対象は土壌などの環境調査や

▼市民ファンド 住民、企業、行政から公益を目的として出資を募り、行政に代わってまちづくりなどの草の根活動に助成する。基金の管理

・運営は信託銀行などに委託する。自治体の補助金より助成の対象や期間が柔軟で住民のアイデアをまちづくりに反映させやすいのが特徴。

街並み保存活動、勉強会などで、一件あたり五万〜五十万円。ただ、かつて年二百五十万円以上あった寄付金は最近百万円以下となり、テコ入れが急務になっていた。

そこで始めたのが、様々な世代が集まって交流できる拠点施設を整備する団体への助成活動。同ファンドの浅海義治トラストまちづくり課長は「寄付金の減少をとどめ

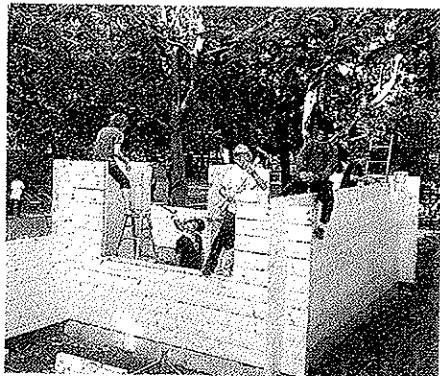
るため、寄付者にわかりやすい形での地域還元が必要」とみている。今年度は十四件の応募から四件を選び、各団体に五百万円程度を助成した。その施設がいずれも十二月までに完成する。区立守山小学校の校庭に多様な生物が生息する緑地(ヒートアップ)や木製デッキなどを整備するのは、生徒や親らでつく

る「あったらいいな、こんな学校の会」。地域の人が、休日などの学校開放日に集まれるようにする狙い。

任意団体の小田原表情隊は同区下馬にある旧小田原代官屋敷の内部を改装して、土間を使った陶芸教室や着物の着付け教室などを開く。周辺の小学校と連携し、お手玉などの「昔遊び」を通じてお年寄りと子供が交流しやすい施設を目指す。

世田谷まちづくりファンド

芦花公園に建設中の観察小屋



まちを元気にする拠点づくりの助成先

名称	内容
あったらいいな、こんな学校の会	校庭の一角に木製デッキを整備。近隣住民が集える場所にする
小田原表情隊	旧小田原代官屋敷を改装して陶芸教室や着付け教室などを開催
NPO法人芦花公園花の丘友の会	芦花公園内に「とんぼ池」に来る動物などを観察できる小屋を設置
多摩川癒しの会	多摩川河川敷に住民が集まれる施設を整備。水陸両用車いすが使える

川の河川敷を憩いの場に活用。障害者にも集えるように水陸両用の車いすを用意する。

特定非営利活動法人(NPO法人)の芦花公園花の丘友の会は、芦花公園内に野鳥や虫などを観察できる小屋を建設中だ。